

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

専門教育科目／4単位／TS授業

担当教員 川崎順子 日田剛 三宮基裕 松原由美

※添削とスクーリング部分については、複数の教員により行う。

■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）
「最新 社会福祉士養成講座第8巻 ソーシャルワーク実習指導・実習（社会専門）」
中央法規出版

◆参考テキスト

・社団法人 日本社会福祉士養成校協会(監修)『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版
・新日本法規『社会福祉六法』（最新版）

講義概要・一般目標

相談援助実習指導の目標は、①相談援助実習（以下、現場実習）の意義について理解する②現場実習に係る個人指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する③社会福祉士として求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系的に理解できる能力を涵養する、となります。

相談援助実習指導Ⅰでは、現場学習の意義について理解を深めるとともに、社会福祉士に求められる資質、技術、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得を目指します。

まず、現場実習の前段階としてクライアントをどう捉えるかという視点が必要となります。福祉サービスを利用する当事者への共感的理解を支援の出発点と位置づけ、共感的理解の方法のひとつとして、当事者やその家族が執筆した書籍を読み、当事者や家族の考え方や感情を理解することとします。

次に、現場実習の意義についてテキストを活用し理解を深めます。そして援助者の価値・知識・技術について、現場実習を通してどのように習得するかについて検討していきます。

スクーリングでは、まず実習教育の流れを理解します。次に、実習先選定に必要な各分野における実践現場の状況を学び、そのうえで各自の実習希望分野を検討していきます。

到達目標

- 1) 相談援助実習の意義について説明できる。
- 2) 実習を行う実習分野の役割・機能が説明できる。
- 3) 実習分野の選定動機が説明できる。
- 4) 実習に向けての事前学習・事前準備ができる。
- 5) 実習先の法的根拠や業務内容が説明できる。
- 6) 実習に必要なとされる基本的態度を示すことができる。
- 7) 実習体験を行い、具体的な実習課題を明確に説明できる。

実務経験のある教員による教育

実務経験（社会福祉士等）のある担当教員による実践に即した指導をおこなう。

評価方法

T部分：科目単位認定試験（レポート）により評価。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

序章 講義-演習-実習の循環

ソーシャルワーカーに求められる役割を理解し、また、実習指導から実習までの循環的な学習体系を理解して実習に必要な知識の習得を円滑に進めることをねらいとする。

第1章 ソーシャルワークの実習の目的と構造

実習と実習指導の意義・目的について理解し、実習の展開や学習方法、倫理を学ぶ。実習の構造として、実習を構成するプロセス、システムの理解、また、実習中のリスクマネジメントの知識を身につける。

第2章 実習先決定に向けた準備

実習先に関する情報収集のためのツールの活用、ボランティアの経験や過去の実習生が作成した報告書などを通して、実習先選定の方法を理解する。また、実習施設・機関の範囲や概要を理解する。

第3章 実習先決定後の準備

実習先決定後を想定して実習施設・期間の概要に加え、支援対象、関係する社会資源、地域特性に関する事前学習の具体的な内容と進め方について学ぶ。相談援助実習の目的に沿った実習計画の内容、作成方法、プロセスおよび指導内容について学ぶ。また、事前訪問／事前打ち合わせの意義と内容、手順について学ぶ。

第4章 実習中の学習

実習生が、ソーシャルワーカーが働く「現場」に臨み、直接見聞きし、体験しつつ学びを深めていく際の要点や留意点について学ぶ。

第5章 実習後の学習

実習後に実施するスーパービジョンや自己評価・他者評価、総括などの学習を通して、実習体験や記録などの結果を分析、解釈、評価することにより、ソーシャルワークの価値・知識・技術の統合化の必要性を理解する。

第6章 実習の実際

相談援助実習の達成目標を踏まえ、その内容を実習で学ぶ意義について理解する。また、達成目標を細分化した行動目標を取り上げ、その行動目標に沿った具体的な学習場面を実習生の目線から例示し、実習中にどのような行動を取ることで、学びを得られるかを理解する。

*スクーリングでは、事前学習の必要性、実習態度・姿勢のあり方を考えていく。また、履修条件等を踏まえ各分野の情報を得たうえで実習希望分野を検討し、実習手続き、体験学習の方法について指導していく。